

Books of the Month

今月の本

ぼくとがんの7年

著：松永正訓
発行：医学書院
TEL：03-3817-5600
定価：1980 円（本体 1800 円＋税 10%）

小児がん外科医が、あるとき突然膀胱がんになった。患者の痛みを知った医師はいったい何を思ったのか。著者は闘病を通じて、くり返し「痛い目」にあい、死についてもじっくり考えた。がんを患ったときに生じる悩みにどう対処するかヒントがある、深刻だけれどときどき前向き、そしてちょっとセンチメンタルな闘病記。

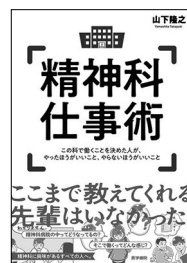


精神科仕事術

この科で働くことを決めた人が、
やったほうが良いこと、やらないほうが良いこと

著：山下隆之
発行：医学書院
TEL：03-3817-5600
定価：2200 円（本体 2000 円＋税 10%）

精神科で働くことに興味がある人のための指南書。志半ばで精神科看護師を辞めていく人に心を痛め、著者は「ここが精神科独自のケア技術、看護業務だ」という部分をノートに書き溜めた。入職間もない時期から慣れた頃まで、期間別に「やったほうが良いこと、やらないほうが良いこと」を、その理由とともに解説する。

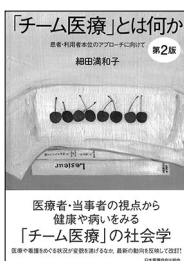


「チーム医療」とは何か

患者・利用者本位のアプローチに向けて 第2版

著：細田満和子
発行：日本看護協会出版会
TEL：0436-23-3271
定価：2750 円（本体 2500 円＋税 10%）

医療社会学者が臨床現場でのフィールドワークをもとに、変化を続ける「チーム医療」の現実を明らかにした。チーム医療を構成する4つの要素とチーム医療がうまくいかない6つの困難をインタビューや事例をもとに解明する。第2版は医療だけでなく、地域や福祉も含めた多職種連携、さらに当事者参画の視点も加わった。



看護診断のためのよくわかる中範囲理論

第3版

監修：黒田裕子
発行：学研メディカル秀潤社
TEL：03-6431-1234
定価：3740 円（本体 3400 円＋税 10%）

『NANDA-I 看護診断』が大幅に改訂され、内容を一新し、新たな項目が加わった。第3版はそれに応じて刷新を図り、看護診断の背景となるさまざまな中範囲理論の解説とともに、具体的な事例にどのように中範囲理論を活用すればよいのかを提示する。中範囲理論を理解して、適切な看護を提供するための解説書。

